

カラー	■ 大本山総持寺祖院	成寿のあゆみ	18
巻頭言	●		22
特集	● 瑩山禅師の二大誓願	黒田 武志	36
	● 大本山総持寺祖院の伽藍	東 隆眞	39
カラー	■ 仏縁にもよおされて	マレーシアとタイ	43
	● 仏縁にもよおされて	佐藤 俊明	56
特別読物	● 出逢い(その一)	東郷 敏	66
連載	● くらしの中で読む『正法眼蔵』	小倉 玄照	76
	● 武徳君の立職を祝す	宮川 健児	83
エッセイ	● 知識と知恵	島 健児	90
留学記	● 二度目のインド国内旅行(1)	落合 隆	93
	● 風の葬送		102
	● 森山師を送る言葉		108
	● 四月のお茶会 桜の花の下で	「清和会」開かれる	111
カラー	■ 観桜茶会		113
声	『明日に生きる』に寄せて		117
善光寺ニュース			126
読者のたより			134

題字・さし絵
クラブピア

伊藤三喜庵
五十嵐千彦

『手漉の紙』より

134 126 117 113 111 108 102 93 90 83 76 56 43 39 36 22 18

巻頭言

昨年秋、善光寺婦人会主催のもと、かねて念願の永平寺及び総持寺祖院の参拝を実施しましたところ、参加の皆様がたよりたいへんよろこばれましたことはまことに望外の幸いでございました。

曹洞宗大本山、永平寺と総持寺はひろく国中に知られ、参詣、拝観の人波は絶えることなく、ほんとうに結構なことであります。

しかし、総持寺がかつて六百年の間、能登半島にあつて、曹洞宗の教線を国中に弘めた中核であつたこと、横浜鶴見に移つてきたのは近々八十年に過ぎないことを知る人は年々減少してきております。この時に祖院を団体で参拝したことはまさに当を得たことであつたと自負するとも、曹洞宗の寺々及び檀信徒はもつともつと祖院に対して関心を深くしなくてはと痛感する次第であります。

それで本号は東先生に祖院紹介の一文を寄せていただき、グラフィックに

は祖院の点描を載せることにいたしました。祖院を大事にいたしましたよ
う。

次に、今春はマレーシアに行つて参りました。佐藤老師の旅行記が載
つておりますのでお読みいただけますが、善光寺留学僧育英会は思わぬ
ところから要請を受けるまでになりました。これは当初予想もしなかつ
たことであります。

さて、昭和六十一年インドを振り出しに佐藤老師とともに関係各国を
まわつてきましたが、この程往訪十力国に達しました。さいわい明年は
当寺開創二十五周年に当りますし、留学僧は延べ四十七名、派遣先は十
八力国になりましたので、目下記念事業を検討しておりますが、その一
環として旅行記の出版をと考えております。ご期待をお願いする次第で
あります。